



キンキサインの 水源涵養への 取り組みを開始

水源涵養（かんよう）は、森が雨水を蓄え、きれいな水として川へ送り出す自然の働きを守る活動だ。山林が健全に保たれていると、落ち葉や土壌がスポンジのような役割を果たし、雨水をゆっくり地中にしみ込ませる。その結果、濁水や土砂災害のリスクを減らし、地域の豊かな水環境を支え続けることにつながる。しかし、手入れの行き届かない山林では、木々が過密になり地面に光が届かなくなることによって土壌が弱り、保水力が低下する。

水源涵養とは

森林を整備の基本作業
森を育てる第一歩に

森林を健全な状態に近づけるためには、いくつもの基礎的な整備作業がある。下草刈りは、地表に光と風が届くようにし、苗木の成長を助ける。枝打ちには木の上部へ日光が届くようにし、根の張りや幹の育ちを促す。間伐は混み合った木を適度に間引き、一本一本が健全に育つ環境を整える重要な作業だ。

必要に応じて植林も行われ、更新が進むと森は再び多くの水を蓄え、ゆっくりと川へ送り出す力を取り戻す。また、森林は多くの動植物の生活の場でもある。整備の際には生態系への影響に配慮し、人と自然が無理なく共生できる形で取り組み姿勢が求められる。



2025年(令和7年)11月23日 日曜日

神 戸 瀬 河

キンキサイン、山田林業と協力 水資源保全へ山林整備

若い世代の見学会も開催

豊かな水資源を次が深刻になる中、同社の山口祖廣社長が山田林業の協力で山林を育て、水を節制し、くまなく地表に光が届き、下草が育つ保水力の高い山になること、動物の餌になる植物が育ち、獣害の拡大、飲料の製造に水資源を活用できることは当たり前ではなく、山を守る人の営みがあつてこそだと痛感。「やまもり100年の森」と名付けた水源の養育プロジェクトを企画した。

今後、山田林業が管理するキンキサインが活用する水源となる同町作畑、越知



水源プロジェクトで協力するキンキサインの山口祖廣社長（左）と山田林業の山田健太郎社長（右）が町役場前。

サインが負担する。また地元小学校などに働きかけ、放置された森を手入れされた森の多いなど、子どもたちが現地で学ぶ機会を来年度から設ける。

10月22日にはプロジェクト開始の式典を校庭（同町豊賀町）で開き、両氏が町長や地元小学校長らに概要を説明した。山口社長は「（飲料製造で）使った以上の水を森へ蓄えられるようにしたい」、山田林業の山田健太郎社長は「木を切るの聞く、環境破壊だと思ふ子ともない。健全な木を育てるためだ。知ってもらえたら」と述べた。

（喜田美咲）

神河町で始動 企業と地域が連携し未来へつなぐ

こうした課題に向き合うと、キンキサイン株式会社が神河町で水源涵養活動を始めた。地元山田林業や行政と協力し、地域ぐるみで環境保全を進めていく取り組みだ。

活動開始に合わせて開かれたオープニング式典には、町長や山田林業の関係者、高校や専門学校の関係者が出席。水源の森が果たす役割を確認し、整備の必要性について意見を交わした。

山口祖廣社長は「森と水は、地域にとって欠かさない財産。企業としてできることを地道に続けたい」と話す。今後は整備作業に加え、地域住民や子どもたちが森の役割を学べる機会づくりにも力を入れていく考えだ。

地域の自然を守り、未来へつなぐ取り組みとして、活動への期待は大きい。

